

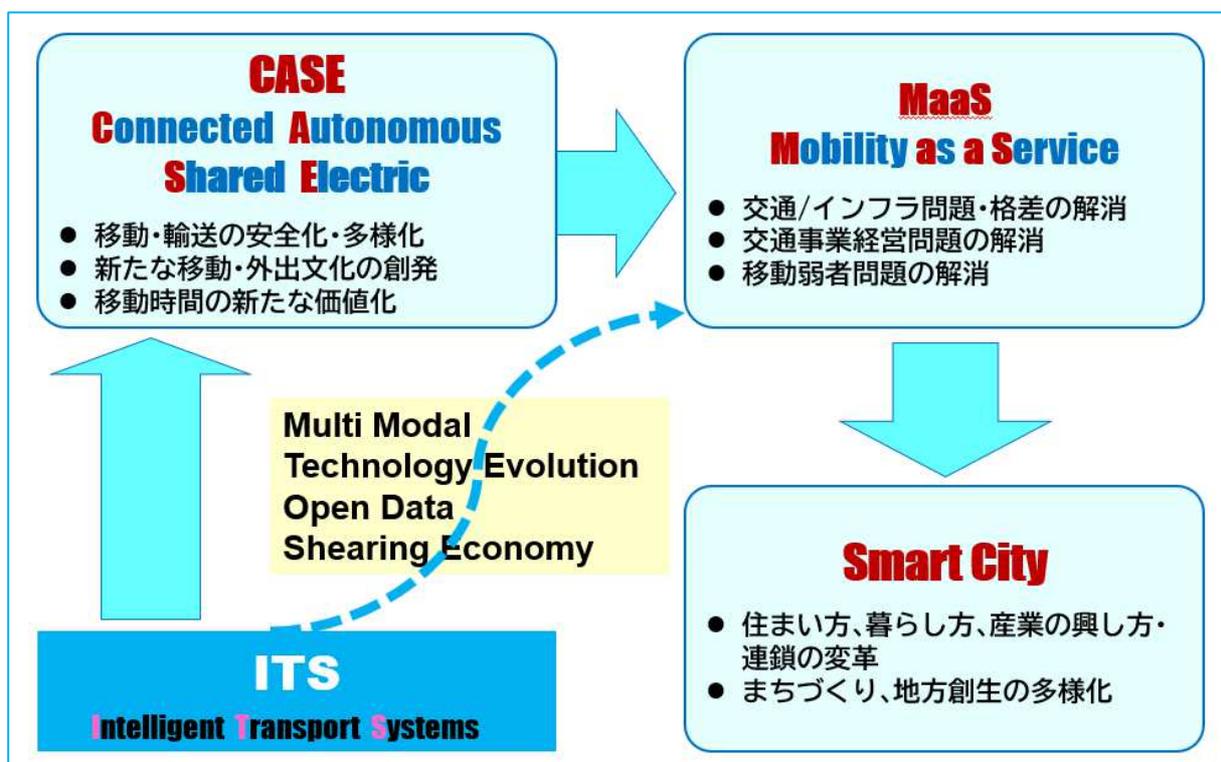
5. 解説：ITS/CASE/MaaS とは

ITSは「Intelligent Transport Systems」の短縮表示で、日本語訳は「高度道路交通システム」と称されてきた。従って、未だに「ITS は、人と道路と車両をネットワーク化した社会システム」とされるが、「Transport」の本来の意味からすると、「道路」に特定されることなく、「マルチモーダル」が正しい。欧米ではそのような意味合いで使用されている。日本においても、最近ようやく、ドローンの普及により、道路を超えた交通概念に転化しつつある。

ITSの所管は、警察庁、総務省(旧郵政省)、経済産業省(旧通産省)、国土交通省(旧運輸省・建設省)である。そして、最近、デジタル庁が設置されたことに伴い、「官民ITS構想・ロードマップ」については、デジタル庁が司令塔として位置づけられている。

わが国において、ITSの取り組みは、旧5省庁により1973年頃からは始まり、1996年度に国の予算に初めて「ITS」が費目化された。こうしたITSの成果が一般社会に実装され、認識されたのは1998年10月の「ETC」導入が最初である。その普及率はいまや94%に達している。

ITSの延長線上に、ハード主体の進化によるのがCASEであり、ソフト(サービス)主体の進化がMaaSである、それらがベースとなって、Smart Cityへとつながっていく。



単体からシステムへ、そしてプラットフォームへとステージが上がるに連れ、グローバルレベルでの標準、各国社会の仕組みとの擦り合せが重要となってきている。自動車産業のあり方を一変するイノベーションに繋がるものであり、日本の産業構造のDXもまた問われている。